

授業科目(ナンバリング)	ソーシャルワーク実習の理解 (DB209)			担当教員	野田 健・韓 榮芝・裴 孝承 中村 尚生・山下 彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>社会福祉関連の国家資格取得を結実する意識を持ち始める 2 年次には、これまでの座学による知識・技術の習得に加えて、実践能力をつけるための実習の重要性を理解し、その準備を行うことが課題となる。そのために設定されたこの科目では、実習の位置づけを理解し、記録の書き方や礼儀作法等を学修することを通じ、実習の学習効果を高めることをねらいとしている。</p> <p>また、ディプロマポリシーに掲げられる社会の課題に対する思考力・判断力・表現力を活用し、主体的に問題解決を行う力を養成するために、授業の展開においては、課題に基づいたレポート作成やディスカッション、グループワークを受講生が行う。この科目は、実習に向けて具体的準備を行う各実習指導へつながる科目であり、国家資格取得希望者は履修することが必要である。</p>							①②④⑥⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	相談援助実習に取り組む意欲、実習へ向けての積極的態について文章化して表現できる。				・課題レポート	20%	
情報収集、分析力	社会福祉士への育ちの過程には実習が重要な位置を占めることを理解し、相談援助の担い手としての価値・倫理観、自己覚知と自らの課題を考えることができる。				・授業態度 ・授業内課題	10% 10%	
コミュニケーション力	相談援助事例において、これまで習得した知識・技術を活用した支援を構想することができる。				・授業態度	10%	
協働・課題解決力	相談援助実習の意義と内容、方法・形態を説明できる。				・課題レポート ・授業内課題	20% 10%	
多様性理解力	福祉機関の利用者の多様性を理解することができる。多様な人びとと共生し、仲間や家族となって力を合わせて暮らすことを想像しその意味を理解することができる。				・課題レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業態度（20%）は、授業への参加の姿勢から、実習に取り組む意欲・態度を有しているかを判断する。また、グループワークの積極性とプレゼンテーションの適切性で評価する。課題レポート（60%）は、①ゲストスピーカーの授業内容を記録し、記録の適切性を評価する。②新聞・ニュースのスクラップを行い、考察を行い、実習で求められる支援場面における知識・技術の活用能力をみる。授業内課題（20%）は、授業の振り返りをポートフォリオで提出することで、相談援助の担い手としての価値・倫理観をはじめとして、実習の意義と内容、方法・形態などを説明できるかどうかを問う。課題レポートと授業内課題は、締め切り日を厳守し、フィードバックは、授業内で行う。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業では、基本的に担当教員がそれぞれ少人数クラスを受け持ち 15 回の授業を展開させ、実習で何を学び身につけるのかを明確にした上で、実習日誌等の書き方・実習生としての礼儀作法等を実践的に身につける。その際、ディスカッション、グループワークを行う。課題作成時には、ポートフォリオなどの ICT を活用する。具体的な日程については、ポートフォリオ等を通して通知するため、履修者は留意すること。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：授業中に資料を配布する 参考書：小六法編集委員会（2023）『福祉小六法 2023 年版』みらい（法律を適時確認するために活用） 指定図書：長崎国際大学社会福祉士実習報告書</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

今日の社会福祉士養成課程においては、実習の重要性が改めて認識されている。実習では、座学で学んだ理論、演習で取り組んだそれら理論の活用法、加えて、実習生がこれまでの人生で培ってきた物事への取り組み方など、すべてが動員される。そこで、自らのものの考え方の特徴や傾向、行動のあり方、抱える課題などを見つめるように努力してほしい。また、現場の姿を具体的に知るために、積極的にボランティア活動に取り組んで欲しい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 実習の位置づけ及び支援の視点	本授業の全体的な流れや本授業での課題について理解する。社会福祉従事者にかかる養成制度と養成課程等を理解する。(全体会)	予習：シラバスを読む。 復習：希望する資格の養成制度をまとめる。
2	個人プロフィール表の書き方①	実習先に提出する個人プロフィール表に関する理解を深め、作成に入る。	予習・復習：個人プロフィール表を作成する。
3	個人プロフィール表の書き方②	実習先に提出する個人プロフィール表を作成する。	予習・復習：個人プロフィール表を作成する。
4	実習日誌、メモの書き方①	実習日誌とメモの書き方を学び、DVDの事例や自己体験を用いて記録の練習を行う。	予習：実習日誌を1枚書く。 復習：記録の書き方の振り返りを行う。
5	実習日誌、メモの書き方②	実習日誌とメモの書き方を学び、DVDの事例や自己体験を用いて記録の練習を行う。	予習：実習日誌を1枚書く。 復習：自分自身の記録書き方の課題を整理する。
6	社会福祉の対象者と支援形態①	高齢者・障害者福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：高齢者・障害者福祉サービスについて調べる。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
7	社会福祉の対象者と支援形態②	児童・地域福祉サービス事業所の仕組みや対象者及び支援の実態を理解する。また、その内容を記録する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習：児童・地域福祉サービスについて調べる。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
8	実習における礼儀作法①	実習生に求められる礼儀作法(挨拶、コミュニケーション、電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	予習：礼儀作法について調べる。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
9	実習における礼儀作法②	実習生に求められる礼儀作法(挨拶、コミュニケーション、電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	予習：礼儀作法のロールプレイングの準備をする。 復習：自分自身の礼儀作法の課題を整理する。
10	礼状の書き方①	実習生に求められる礼儀作法(挨拶、コミュニケーション、電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	予習：礼状について調べる。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
11	礼状の書き方②	実習生に求められる礼儀作法(挨拶、コミュニケーション、電話のかけ方、服装など)を学び、身に付ける。	予習：礼状を書く。 復習：自分自身の礼状の課題を整理する。
12	ヒヤリハット、事故報告書の書き方①	実習中に被る事故やヒヤリハットを報告書として文書化する意味や書き方を理解する。	予習：ヒヤリハットについて調べる。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
13	ヒヤリハット、事故報告書の書き方②	実習中に被る事故やヒヤリハットを報告書として文書化する意味や書き方を理解する。	予習：ヒヤリハット報告書と事故報告書を作成する。 復習：自分自身の報告書作成の課題を整理する。
14	本授業のまとめ	本授業で身に付けた知識や技術を振り返る。(全体会)	予習：これまで身に付けた知識や技術を整理する。 復習：授業内容の振り返りを行い、記録を提出する。
15	多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習(ボランティア活動等)	見学実習の一環で、実習先等が実施しているボランティア活動や見学会に2回参加し、それぞれの体験を日誌にまとめる。	予習：ボランティア等の準備を行う。 復習：活動を実習日誌に書いて提出する。